

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

8月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	40	20
平 年 並	40	40	40
低い(少ない)	20	20	40

(平成23年8月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	27.4	30.0	25.3	230.0	184.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

9月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

植付期および生育初期におけるメイチュウ類および土壌害虫の防除対策

- a 8月の中旬の調査の結果、夏植におけるメイチュウ類の被害茎率は3.2%、春植・株出における芯枯茎率は、0.6%であった。
- b 8月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.2頭(前年3.2頭、平年4.7頭)と平年並であった。
- c 例年植付後に、メイチュウ類およびハリガネムシによる芯枯れおよび不萌芽が発生する。
- d 植え溝に薬剤(粒剤)を適正に処理する。
- e 生育初期のメイチュウ類の防除は、食入初期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- f 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。
- g 平成23年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成23年9月1日付)参照。

野その防除対策

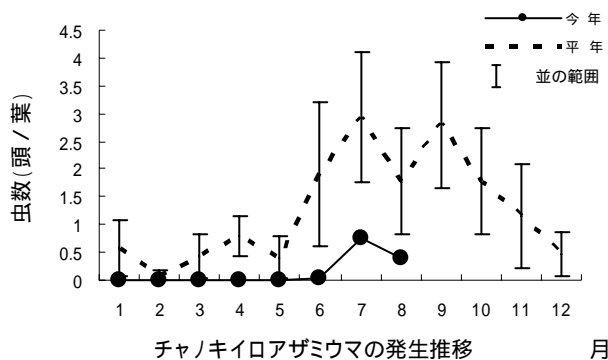
- a 8月中旬の調査の結果、被害茎率は0.1%(前年0.2%、平年0.4%)と平年よりやや低かった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- d 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。

2 マンゴー

(1) チャノキイロアザミウマ

発生程度 : やや少
予報の根拠

8月中旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマの葉当たり虫数は0.4頭(前年3.1頭、平年1.8頭)とやや少なかった。



< 防除上注意すべき事項 >

- 多発すると防除が困難となるので早期発見・早期防除に努める。
- 灌水を行う際、噴霧器などで本種を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

栄養生長期における病害虫防除対策

- 8月中旬の調査の結果、ハダニ類の葉当たり虫数は0.3頭(前年2.7頭)であった。また、一部の施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガの被害がみられた。
- ハダニなど微小害虫は、多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。
- 灌水を行う際、噴霧機などで微小害虫を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- 剪定を行った後の残渣は、病害虫の発生源となるため、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- 台風等の風雨害を受けると、炭疽病やかいよう病の発生が助長されることから、予防散布を心がける。